

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2020年秋期調査結果の概要

モニタリングサイト1000（以下、モニ1000）シギ・チドリ類調査の2020年秋期調査結果の概要をお知らせします。



最大個体数は再び減少

2020年度秋期調査は、2020年8月1日から9月30日までの期間実施されました。106か所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2020年9月20日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は88か所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類 45種7,361羽、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ68羽が記録され、秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類 54種21,538羽、ヘラサギ5羽、クロツラヘラサギ107羽が記録されています。

2000年秋期以降の「全サイト」と「2000年以降調査が継続されている42サイトのみ」の最大個体数の合計をグラフに示しました（Fig.1）。

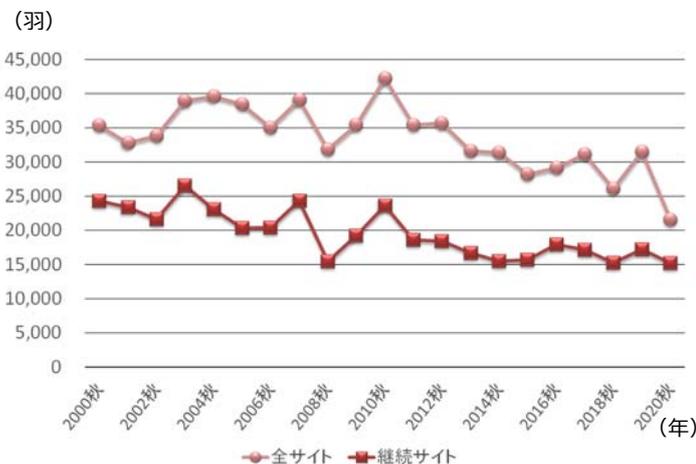


Fig.1. 秋期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移 (2000年から2020年の継続サイトN=42)

2020年秋期の全サイトの最大個体数の合計は、前年度秋期と比べ9,950羽（-31.6%）減少し、継続サイトでは前年度秋期と比べ2,016羽（-11.7%）減少して15,197羽と低いレベルとなりました。ほぼ全国的に2019年秋期の結果よりも減少し、さらに全サイトでは参加サイト数が8サイト減少した影響もあって大幅に下がりました。

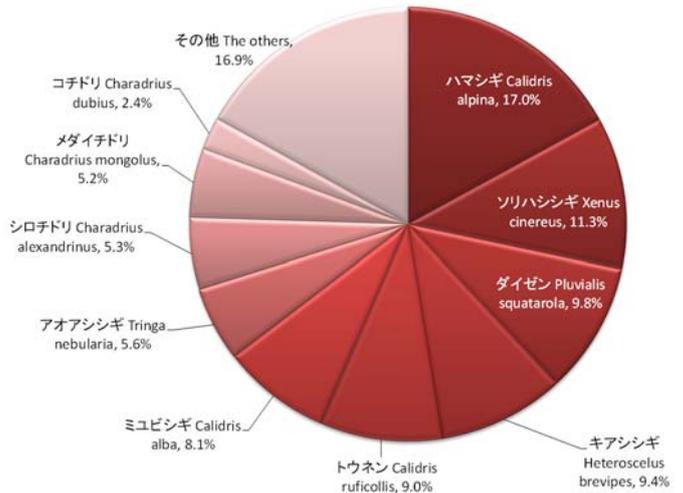


Fig.2. 2020年秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成

最大個体数における優占種の上位種は、ハマシギ（17.0%）を筆頭種に、ソリハシシギ（11.3%）、ダイゼン（9.8%）、キアシシギ（9.4%）、トウネン（9.0%）の順でした（Fig.2）。大きな変化としては、今まで優占1位であったトウネンの順位が大きく下がり5位に、またキアシシギも徐々に下がり4位となっています（Table.1）。逆に冬鳥であるハマシギの優占順位は徐々に上がり1位に、同様に冬期に滞在するダイゼン

Table1. 秋期調査における優占上位種の順位 (2017年から2020年)

	2017年秋期	2018年秋期	2019年秋期	2020年秋期
1	トウネン	トウネン	トウネン	ハマシギ
2	キアシシギ	ミユビシギ	ハマシギ	ソリハシシギ
3	ミユビシギ	キアシシギ	キアシシギ	ダイゼン
4	ハマシギ	ハマシギ	ソリハシシギ	キアシシギ
5	ダイゼン	ダイゼン	ダイゼン	トウネン

も3位となりました。また九州地方で多いソリハシシギも上位となっています。上位種の個体数を確認すると、トウネンの急激な増減の繰り返しと2019年頃からのハマシギの増加が目立ち、また、ダイゼン、ソリハシシギについては大きな変化はなく、上位種であったトウネン、キア

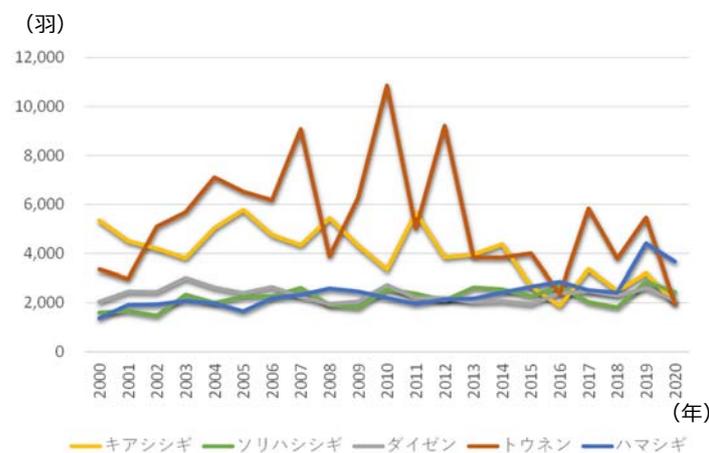


Fig.3. 秋期調査における優占上位種の最大個体数合計の推移 (2000年から2020年)

シシギが減少し順位が上がってきたことを示しています (Fig.3)。越冬種であるハマシギは渡来が早まるとともに秋期の観察個体数が増加している可能性があります。ただ、昨年からの傾向が急に始まっているので、別の要因があるかもしれません。一方トウネンの急激な増減は、繁殖状況や渡りルートの変化、渡り時の天候 (荒天だと長期間留まる可能性がある) などが要因として考えられます。急激な増加や減少は度々見られていますが、近年は増加より、減少傾向の方が強く、徐々に観察個体数が減少しており、今後注意してモニタリングしていく必要があると考えています。



Photo 1. トウネン
by Toshifumi Moriya

また、このような状況が日本だけの傾向なのか、フライウェイの他国の情報収集も必要です。

盤洲サイトでオオチドリが観察される

コアサイトの盤洲サイト (千葉県木更津市) でオオチドリ (英名: Oriental Plover) が1羽観察されました (Photo2.)。2020年9月5日に澤本将太さん (幕張C浜担当) が発見し、9月8日に盤洲を担当されている米持千里さんが調査中に観察記録しました。中央アジアから中国東北部周辺で繁殖し、アフリカ東部、東南アジア、オーストラリアなどで越冬します。日本では先島諸島で春期に少数がよく確認されますが、本州では稀なチドリ類です。水辺よりも畑や草地など乾燥した環境

でよく観察され、今回も砂利敷きの広場で観察されています。モニ1000調査では2年ぶりの記録となりました。



Photo2. オオチドリ 2020/9/5 by 澤本将太

新型コロナとモニタリング調査

今年度は、新型コロナウイルスの蔓延防止と感染防止のため、外出しての行動が制限されました。その中であって、モニ1000シギ・チドリ類調査は、やや参加サイト数は減ったものの十分な調査量を確保していただきました。調査員の皆様に感謝を申し上げます。

調査地が野外であり人との距離が確保できたこと、単

独での調査が可能であったこと、公共交通機関を利用しない現地在住の調査員が多かったこと、感染対策を実施していただけたことなどによるものと考えています。しかしながら、モニタリングを周知するための活動や講習会などは、オンラインに限られました。

今後しばらくはこのような状況が続くことを想定し、普及啓発活動は、内容や方法などを工夫していきたいと考えています。

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:キリアイ(守屋年史) 2020年 秋期調査概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-401-8661

メール: shigichi@bird-research.jp